

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102000		
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会		
事業所名	グループホームとちの木荘		
所在地	栃木県宇都宮市徳次郎町2632-1		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.wam.go.jp/wamapp1/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0g

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和3年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇都宮市の北西部の自然豊かな田園地帯で、入居者が穏やかに落ち着いて過ごしていただきその人らしく生活していただけるよう支援させていただいております。また、同一敷地内に併設する特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスの各事業所と連携し日常生活支援、交流、緊急時、災害時の応援体制も整っております。地域密着サービスとして、また、地域の社会資源としてグループホームとちの木荘を地域の皆様に知っていただきと数年前にプチ祭りや高齢者ケアセンターフェアを開催しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、敷地内に特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービス等、多くの施設が併設されている。グループホームは「こすもす」「ひまわり」「なのはな」の3棟がある。
- ・入居前に、本人や家族から今までの生活状況や意向を聞き取り、利用者一人ひとりの生活史や思いを大切に支援している。利用者の「願いや支援して欲しいこと」を職員は「利用者になりきって」把握するように努めている。
- ・職員は利用者の呼名は名字で呼び、敬語で話すように意識している。利用者の居室に入室する際は、必ずノックしてから入室するようにしている。利用者の要望に応じて入浴時や排泄時には同性介護を行っている。
- ・感染症対策として、空気清浄機を設置したり、次亜塩素酸ナトリウムを使用した掃除等が徹底されている。畳のスペースに掘りごたつがあり、利用者が食事をしたり昼寝をする姿が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で介護員が事業所の運営理念を読み上げましたがコロナで朝礼を行っていない。意図的に会議の中で理念を共有し理念にそったケアを行っている。	以前は朝・夕の申し送りを3棟合同で行っていたが感染症対策のため一旦中止とした。最近になり感染症が落ち着いてきたため朝の申し送りが再開され、その際に出席者が理念を唱和している。入職時に、法人の成り立ちや事業所の目的、理念等を説明している。月に1回、棟会議が行われ、理念に沿ったケアができていくかどうかの振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催するお祭り等に参加していた。センターで企画した夏祭り等にも地域の方に参加していただいていたがコロナで中止している。	自治会に加入はしているが、法人の新型コロナウイルス感染症対策のため地域との交流は行っていない。今後も感染症の状況を見ながら法人と相談し、地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時、地域の方の悩みを伺い、入居の協力や助言をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、会議は書面会議に変更した。2か月間の生活の様子等を活動報告書にまとめ家族、推進委員に送っている。家族や推進委員から多くの意見を収集する為、意見等を記載する用紙も送っている。	昨年より感染症対策のため会議は2か月に1回書面で行っている。家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター、警察等、各委員に意見等を記載する用紙を同封しサービスの向上を図っている。家族からの意見で会議の名称を親しみやすい「ひだまりの会」としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から介護保険制度や他の制度について不明なことがあれば遠慮なく相談している。	市の担当者とは介護報酬改定や法改正、感染症対策、困難事例の対応等、普段から連絡や相談を行える協力関係ができていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	棟会議で法律や事例等を提示し職員へ周知させている。年2回、身体拘束・虐待の勉強会を開催している。安全・安心して過ごしていただけるよう意識してケアをしている。	身体拘束廃止委員会が設置されていて3ヶ月に1回開催している。年2回、身体拘束・虐待の研修を法人が主催で実施している。「虐待の芽チェックリスト」を基に、「言葉遣い」や「適切なサービス」について学ぶ機会を持ち理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	棟会議で法律や事例等を提示し職員へ周知させている。年2回、身体拘束・虐待の勉強会を開催している。安全・安心して過ごしていただけるよう意識してケアをしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修や事例発表等に参加し他の施設の取り組みを聞き学びの機会を得ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の時間をもち契約内容を家族へ詳細に説明している。疑問点があれば丁寧に説明している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	回答できる事についてはその場で回答している。検討を要するものについてはリーダー会議等で検討し運営に反映している。必ず家族に結果を伝えている。	家族からは日用品の購入を依頼する時やモニタリングで意見を聞くときに話を聞いている。意見や要望はリーダー会議で共有し勉強会で検討し改善に向けて取り組んでいる。利用者からの要望については、家族に報告してから対応するようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用の意見箱を設置し月1回所長が確認して業務改善、運営に反映している。また、リーダー会議においても議案として取り上げ検討しサービス提供に反映している。	法人の敷地内にあるプレハブ棟に職員用の意見箱が設置されている。月に1回、法人のセンター長が投函された意見を確認し、業務の改善に努めている。意見の内容によっては、リーダー会議で検討し、職員の意見を反映するようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シート作成時、職員から仕事について不安、不満について話を聞き職場環境改善に役立っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートを用いて本年度の目標を上司と面談し決めている。それに向かって取り組んでいくよう話をしている。職場内研修に参加するよう職員に呼びかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	栃木県認知症高齢者グループホーム協会に加入しており情報交換や研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、利用者とコミュニケーションを図りアセスメントシートの内容を把握し利用者を「知る」ことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族から生活に対する意向を伺い、対応出来るようサービスを調整している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面接時、ご本人をアセスメントし入居時ケアプランを提示している。その際、ご本人が生活で困っている課題に対して他のサービスを考えながら必要なケアを提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする者、生活を支援する者、距離を置かず利用者の気持ちに寄り添い日常生活支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であるがご家族が面会に来た時、利用者の生活を伝えている。定期的に日用品の不足品をご家族に持参してもらっている。コロナ禍の為、ご家族による外出支援の参加は得られていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが流行する前はご家族、友人が来荘した際、ゆっくりと会話ができるよう談話室等で会話していただいた。今は出ていない。	入居前から関わっていた家族や友人との手紙や電話のやりとりを継続できるようにしている。感染症対策の為面会する機会が殆ど無いが、半年に1回、利用者が写った広報誌を郵送し事業所での様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や余暇活動を通じて利用者同士が関わりがもて良好な関係が構築できるよう職員は利用者の中に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居室クリーニング終了の連絡をする際、利用者について家族から様子を伺うことがあるが相談までに至っていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向把握についてはケアプラン提示時、家族が面会で来荘した時、利用者とは普段の会話の中で伺っている。困難な場合は棟会議で話し合っ家族に相談している。	入居前に、「暮らしの情報シート」を使用し、本人や家族から今までの生活状況を聞き取り、意向を把握している。困難な場合は、棟会議で話し合い家族に相談した上で把握するようにしている。利用者一人ひとりの生活史や思いを大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接で本人、家族からこれまでの生活について把握している。習慣としてあることはここでの生活に活かしている。また、「暮らしの情報」用紙を家族に渡しこれまでの生活を把握努めようとしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、申し送りノート、ケース記録から情報を収集、共有し把握している。日常生活の観察から「いつもと違う」等の心身の状態を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを実施し本人が抱える課題を抽出している。介護員、看護師、家族、本人から意見を聞き計画書を作っている。モニタリングは本人、家族、介護員、看護師から評価をもらい計画書を見直し作成している。	介護計画は利用者や家族の意向、職員から意見を聞き取り、計画作成担当者が作成している。モニタリングは職員に利用者一人ずつ聞き取りを行い、棟会議で共有している。本人・家族の意向を反映させた計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書にそってケアを提供している。実施結果や気づきについてもその都度、話し合い、情報を共有し見直ししている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内に特別養護老人ホームがあり特養の専門職から「食事相談」や「感染症予防」等の助言を受け運営に反映している。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが流行する以前は運営推進会議を通じて自治会長、民生委員等から情報提供があった。現在はなし。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ適切に受診出来るよう職員が「生活支援経過要約表」を作成し家族に渡している。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続している。家族と一緒に受診することを基本としているが、家族が遠方で対応できない場合や突発的な場合は、外部のサービスや事業所に対応している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で利用者について気づいたことはその都度看護師に報告し対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早い時期に入院前の情報を口頭もしくは生活の様子をまとめたものを入院先に提出している。退院前に入院先を訪問し本人の身体状況、治療状況を病院関係者から聞き取りをしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない。ケアプラン提示の時など本人や家族がどのような生活を希望しているのか、生活の意向を確認している。ケアプランに反映している。	契約時に重度化した場合や看取りについて説明を行っている。事業所としては重度化した場合を目安に住み替えを提案している。食事摂取が困難となった場合は法人内の栄養士に食事形態や水分摂取方法等について助言を求め、状態に応じたケアを提供している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が入職した際、急変時の対応について指導を行っている。また2か月に1回緊急時訓練を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は月1回実施している。センター全体の消防訓練は年1回実施している。センターとして防災のマニュアルがあり定期的に見直しをしている。	毎月、併設する施設と合同で消防訓練を行っている。法人全体でも年1回実施している。災害については安全対策委員会、感染症については感染予防対策委員会で、それぞれ業務継続計画(BCP)を作成している。3日分の備蓄が備えられている。 現在、地域と災害時の協力関係は築けていない。消防署や消防団に、事業所の場所や利用者の実態を知ってもらい、災害時に迅速に対応できるようになることを期待します。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかに敬語、依頼形で声かけしている。常に人生の先輩であることを意識し関わりや声かけしている。	利用者の呼名は名字で呼び、敬語で話すように意識している。利用者の居室に入室する際は、必ずノックをしてから入室するようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には何を飲みたい(種類)のか伺い選んでもらっている。朝の着替え時自身に洋服を選んで着衣してもらっている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動の制限をせず、声かけしその日、どのように過ごしたいかご本人から話を伺い希望にそってケアを提供している。せかさずにご本人のペースに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服を着衣するのではなく利用者と会話し利用者が着衣したい洋服を用意し着衣していただいている。ヘアスタイルもご家族と利用者と相談し利用者にあったカットしてもらっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り寄せ食事提供できるよう心掛けている。利用者に食事の配膳・下膳を行ってもらっている。	食事は食事係が中心となり利用者の好みを聞き取り、業者から食材を取り寄せ調理している。自分で配膳や下膳等を行いたいと希望する利用者は職員と一緒にいる。敬老会や母の日等の行事では、お弁当を頼む等、食の楽しみが得られるよう工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物を提供し水分補給をもらっている。米飯だけでなくおかずも食べていただけるよう声かけている。病気の状態で食べられない食材や好き嫌いな食材があった時、代替品を提供している。栄養が不足しないよう注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアできる方はみがきを行ってもらっている。義歯に関しては職員が預かり義歯洗浄と消毒してお返ししている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレにお連れしている。排尿量を把握しパッドの容量を決めている。	排泄チェック表を基に、利用者一人ひとりの状態に応じて、トイレでの排泄を基本とし介助を行っている。夜間時は転倒のリスクを考慮し、職員が定時で誘導し介助や見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲水していただき食事では野菜を多めに摂っていただくよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に入浴拒否がみられた場合、時間をずらしたり別の職員が入浴にお誘いしている。	週2回、午後に入浴が行われている。個浴で自分のペースでゆっくり入浴できる。入浴の拒否があった場合は日時をずらす等の対応をしている。柚子湯の提供やシャンプーやボディソープ等、自分の好みの物を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか寝付けない入居者には、入眠するまで話を傾聴したり温かい飲み物を提供し入眠するまで寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量を理解し服薬介助を行っている。薬の飲み込むが悪い方には薬を粉碎したりゼリーに溶かして服用できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、パズル、絵合わせ等をしていただけるよう声かけしている。家事援助では食器拭き等をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大で実施できていない。コロナが収束したら以前のように外出支援などを積極的に実施していきたい。	新型コロナウイルス感染症対策のため外出は行っていないが、事業所の庭のベンチに座って日光浴を行ったり、併設施設まで散歩をするなどして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から小遣い管理の依頼を受け小遣い管理をしている。外出支援時にはお小遣いを利用者にお渡しし欲しい物を購入していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	過去に自宅に電話して欲しいと話をしに来た利用者がいた。現在は利用者から自宅に電話して欲しいという要望はないが要望が出てくれば対応していく。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴後、浴室とデイルームの温度差が無いように室温に気を付けている。デイルームと台所が続いているので、調理中、大きな音、不快な音をたてないよう気を付けている。	新型コロナウイルス感染症対策で常に換気を行っているため、寒暖差なく過ごせるように室温管理を行っている。また、空気清浄機を設置したり、次亜塩素酸ナトリウムを使用した掃除等、感染対策が徹底されている。畳のスペースに掘りごたつがあり、利用者が食事をしたり昼寝をする姿が見られる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっているが自由に思いどおりに移動し席に座ってもらっている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた家具類、写真、お人形等を持ち込んでいる。また、テレビ、ラジオ等も持ち込んで楽しんでもらっている。	居室には自宅で使用していたテレビや寝具、家具等、使い慣れた物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。エアコンや照明は居室に設置されている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまずく物を置かないように転倒防止に配慮している。	